

JACET-Kansai Newsletter

No. 32 April 20, 2006

Chapter President: 岡田 伸夫 (Nobuo Okada, Osaka University)

JACET-Kansai Office: 〒522-8533 彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学 小栗裕子研究室内

(Yuko Oguri, The University of Shiga Prefecture, 2500 Hassaka-cho, Hikone-city 522-8533)

Tel: 0749-28-8252 Fax: 0749-28-8619 E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

Postal Account : 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

言葉の力

支部長 岡田伸夫

本年2月9日付けの朝日新聞によると、文科省は近く、約10年ぶりに全面改訂される次期学習指導要領の中で、「言葉の力」をすべての教育内容に必要な基本的な考え方として据えるという原案を中教審の部会に出すということです。学力低下を招いたと言われている現行学習指導要領のキーコンセプト「ゆとり教育」は事実上転換されることになりそうです。もっとも、文科省は、2002年には学習指導要領の内容を「最低基準」と位置づけ、発展的な学習内容を教科書に掲載したり、授業で発展的な学習の指導を行ってもよいとし、また、2005年の教科書検定では小中の教科書に発展的な内容の記述を入れることを容認しています。さらに、学習塾の手を借りて行う「土曜授業」も全国各地の公立学校で行われているようです(本年3月27日付け読売新聞)から、文科省の方針転換は、「ゆとり教育」の現状を追認したものととらえるべきかもしれません。

近年、生徒や学生の読解力や論述力が低下傾向にあると言われますが、言葉はすべての教科・科目を学習するための道具であり、他者を理解し、自己を表現し、他者と社会を形成する基盤です。いつの時代であっても、また、どこのものであっても、言葉の力の育成には最大限の努力を払わなければなりません。ただし、言葉の力の育成というスローガンのもと、国語力の育成だけを目指し、外国語力の育成を軽んじる方向に向かうことのないよう注意しなければならないと思います。

久保田競(2006)『バカはなおせる』(アスキー)によると、「どの年代でも、二カ国語を使えるほうが言葉の領域の活動が高まる」という研究があるそうです。二カ国語が使える人のほうが一カ国語しか使えない人より、ものごとを理解する脳領域である頭頂連合野が発達するというのです。

大事なのは“either 国語 or 外国語”ではなく、“both 国語 and 外国語”であり、課題は学校教育の中で両者をどのように統合するかということです。私たちも、将来、国語教育とのリンクを視野に入れた英語教育をまじめに考えていく必要があるでしょう。

話は少し飛びますが、本年2月10日付けの朝日新聞夕刊に、音楽評論家の片山杜秀氏の手になる作曲家伊福

部昭氏の obituary が掲載されました。その中に次の文章があります。「戦後、音楽は様変わりした。インターナショナルで前衛的な響きが、作曲の王道とされた。だが、伊福部は従わなかった。音楽は人間の生命力を表すべきで、それは人間の生きる風土を抜きにして語れない。『音楽にインターナショナルはない』というのが口癖だった。」私は、偏狭な parochialism や排他主義に対するアンチテーゼとしてのグローバリズムを高く評価しますが、その一方で、グローバリズムが多民族・多文化共生や個の確立にマイナスに働く可能性があることに多少の危惧を覚えています。「音楽にインターナショナルはない」という映画音楽「ゴジラ」(54年)の作曲家の力強い言葉の中に、広大な大地にしっかりと根を下ろした精神の躍動を感じます。「知は力なり」と喝破したベーコンのひそみに倣うと、言葉が知識を形成するわけですから、「言葉は力なり」です。国際語である英語を教える職業にある者にとって伊福部氏の言葉は忘れてはならない視点を示してくれているように思います。

社会のグローバル化が進む中、中教審外国語専門部会は、3月27日、小学校高学年(5~6年)に週1時間程度の英語教育を行う必要があるとの提言をまとめたそうです(本年3月28日付け朝日新聞)。小学校で英語を必修化すべきか否かというホットな論争に一つの答えを出したわけです。9割以上の公立小で英語活動が行われている実績を踏まえた結論でしょう。

小学校における英語活動の質と量は、現在、学校ごと、自治体ごとに異なっています。特例でしょうが、教育特区でバイリンガル養成を掲げる自治体も出てきています。確かに、このまま laissez faire 的に学校ごと、自治体ごとに異なる英語の取り組みが定着してくると、英語ができる人とできない人との間に社会的格差(English divide)が生まれてくるでしょう。教育の機会均等の原則に照らすと、そのような状況は到底放置しておくわけにはいきません。

4月15日付けの毎日新聞には、小学校における英語の必修化を前にして、「発音に自信がない」と尻込みする小学校の先生や「隣のクラス担任に比べ、わが子の担任は」と親のプレッシャーがのしかかるのでは」と懸念する指導主事のことが出ています。小中高一貫したカリキュラムの開発、教員養成課程のカリキュラムの見直

し、小学校教員免許の見直し、英語指導能力を高めるための教員研修の実施、外国語指導助手や英語に堪能な人材の確保など、早急に検討すべき課題はたくさんあります。みんなで知恵を絞って前向きに対応していきたいと思えます。

最後になりましたが、この場をお借りして皆様に一言お礼を申し上げます。2002年6月9日の総会で皆様のご承認をいただき、支部長に就きましたが、本年6月3日の総会で木村博是新支部長が承認されると、私は3月31日に遡って支部長を退任することになります。これからは一会員として支部の皆様と一緒に活動していきたいと思えます。

力も徳もない私が4年間曲がりなりにも支部長の要職を務めることができたのは、ひとえに皆様の温かいご支援、ご鞭撻があったればこそです。この間お世話になった皆様のお一人お一人にお礼を申し上げたいのはやまやまですが、それもなりませんので、この場をお借りして心からお礼を申し上げる次第です。ありがとうございました。

組織構成委員会・理事会報告

支部長 岡田伸夫

去る3月26日の午前に第7回組織構成委員会が、また、同日の午後と翌日の午前に2005年度春季理事会が開かれました。審議された事項の中からいくつかピックアップして以下にご報告いたします。

昨年、関東甲越地区という名前で実質的な支部活動をしてこられた関東支部が、この4月1日から正式に支部として発足することになりました。支部会員1066名(春季理事会資料に基づく人数です)の大支部です。順調な船出とますますのご発展を心から祈念いたします。

関東支部の設立に伴い、本部と支部の関係がすっきりと整理され、本部は関東支部を含む全国7支部の上位機構として機能することになりました。

また、法人化準備委員会(委員長:神保尚武副会長)が中心となり、JACETの社団法人化のための詰めの作業を進めています。

9月8日-10日の第45回全国大会(会場:関西外国語大学中宮キャンパス)の中身も着々と決まってきました。支部の皆様のご支援をお願い申し上げます。

JACET関西支部共催ワークショップのご案内

One-day Workshop in English Phonetics

招聘講師: John Wells 教授

(ロンドン大学音声学科教授、国際音声学会会長)

松野和彦教授

(名古屋外国語大学副学長、東京大学名誉教授)

内容: Lecture on Intonation, Lecture on Pronunciation, Intonation Practice, Pronunciation Practice.

Panel Discussion: Phonetics for Japanese Learners of English

日時:5月15日(月)10:00 ~ 17:40

会場:関西外国語大学中宮キャンパス(京阪電車枚方市駅から京阪バス8分)

図書館学術情報センター遠隔授業教室

参加費:無料、事前登録要

問い合わせ: tel. 072-805-2801(代表)

email:iri@kansai.ac.jp

* 春季大会のご案内 + 懇親会へのお誘い*

春季大会が、6月3日(土)10時より18時まで立命館大学衣笠キャンパスにて開催されます。「英語教育の改革—今求められるそのニーズと実践—」と題して、午前中ワークショップが3件、午後は研究発表と実践報告がそれぞれ3件ずつ予定されております。総会が3時から、最後は今注目されているESPに関するシンポジウムです。詳細につきましては、同封のプログラム及び発表要旨をご覧ください。

懇親会は、18時より同キャンパス内の末川記念館で開かれます。ノンアルコールをご希望の皆さんとアルコール有り(Beerのみ)をご希望の皆さんのそれぞれのご希望にお応えできる形になっております。会員の皆様にはぜひとも事前申し込み(ノンアルコールの場合3,000円、ビール込みの場合4,000円)をご活用していただきたくお願い申し上げます。詳しくは、プログラムの「懇親会」ページをご覧ください。尚、事前申し込みの締め切りは5月19日(金)です。

(会計担当幹事 佐藤恭子)

関西支部事務局の交代

関西支部の事務局を、4月1日付けで小栗裕子先生(滋賀県立大学)に交代いたしました。2年間事務局として、関西支部の皆様にご育ていただきました。ご迷惑をおかけすることもありましたが、勉強させていただいたことも多く、皆様のご指導、ご協力、ご理解に心より感謝申し上げます。この場を借りて、一言お礼申し上げます。(旧事務局幹事 相川真佐夫)

事務局幹事を引き継ぎました小栗裕子です。支部長の岡田伸夫先生、事務局幹事の相川真佐夫先生、会計の藤林富郎先生には4年間JACET関西のためにご尽力くださりまして、本当にありがとうございました。先生方には引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。